

La Vigne du Perron (Domaine Francois Grinand)

ラ・ヴィーニュ・デュ・ペロン (フランソワ・グリナン)



	○Coufe-Chien クフ・シアン			備考	Coufe chien (クフ・シアン)はジャケール種の、フランソワの住む地域での呼び方。ジャケールはゆっくりと熟し、収量も多く、軽い目のワインが出来ると言われる。フランソワの感性を感じる、美しい酸を備えた白ワイン。
	畑	品種：ジャケール 位置：標高330m、西向き 土壌：石灰粘土質	醸造		
	○KATAPHNA カタリーナ			備考	ロシア語のアルファベット (КАТАРИНА) の読み方をするため、カタリーナと読む。畑の真上にそびえる、アルプスまで続く崖を連想させる垂直的なミネラル感。
	畑	品種：シャルドネ 位置：標高300m 土壌：石灰質粘土	醸造		
	○Serène Blanche セレーヌ・ブランシュ			備考	フランソワ・グリナンのワインの中でも、極端に少量生産のワイン。ルーセットは他のサヴォワの白品種と比べ、果実味が豊かでしばしば濃厚な、花梨や杏子の香りがする。ゆっくりと時間をかけてつくるフランソワ。ボトル詰後もじっくりと落ち着かせてみると、様々な表情を見せる。
	畑	品種：ルーセット(アルテス) 位置：標高300m 土壌：泥土、石灰質岩石	醸造		
	●Les Ermitures レ・ゼルミテュール			備考	Ermitureとは「孤立した土地」という意味の地元の言葉。除草剤を使う周囲の栽培家からの、草が生えすぎた畑、という自分の畑に対する批評に対し、あえてこの言葉を使った。 アルプスを東に控え、空気が澄んだ渓谷に広がるブドウ畑から生き生きとした味わいのワインが生まれる。チャーミングな味わいでありながら、エキスのつまった奥行きのある味わいです。パリでは、ピュジエのワインというより、フランソワのワインとして愛されている。
	畑	品種：ガメ 植樹：1977年 位置：標高250m、南西向き 土壌：石灰粘土質	醸造		
	●Persanne ペルサンヌ			備考	「ペルサンヌ」とは、この地方で多数の類義語を持つモンドゥーズの呼び名の一つ。スパイシーで旨味を感じるモンドゥーズという品種を良く表している、フランソワ・グリナンの代表的な赤ワイン。
	畑	品種：モンドゥーズ 植樹：1990年 位置：標高250m、南西向き 土壌：粘土石灰質	醸造		
	●Les Etapes レ・ゼタップ			備考	Les Etapesはフランスプロヴァンスの方言の<<tippa>>という言葉から来ており、広い荒地を意味する。フランソワの別のキュヴェであるErmitureと同じように、草が生えすぎて、手入れの行き届いていない畑、という周りからの批評の言葉に対し、あえてこの言葉を使った。が、これほど素晴らしいピノ・ノワールをいくつ名前を挙げることが出来るだろうか？
	畑	品種：ピノ・ノワール 植樹：1994年 位置：標高280m、南西向き 土壌：泥土、石灰質岩石	醸造		
	●En Messieurs アン・メッシュュ			備考	キュヴェ名は区画の名前に由来。2010年にセラーを引っ越したフランソワ。新しいセラーのオーナーがたくしてくれたガメのみを使用したキュヴ。マグナムでのみ詰められるの。
	畑	品種：ガメ 植樹：1934年 位置：標高250m、南向き 土壌：石灰粘土質	醸造		